

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397200011		
法人名	有限会社ライフエール		
事業所名	グループホーム悠縁 1階		
所在地	愛知県愛西市甘村井町勘十田割21番地2		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=2375601594-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1つの大きな家族として、入居者、職員共に支え合いながら生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者一人ひとりが、その人らしく最期まで生活してもらうことを目的にして運営しており、これまでに何人もの方の看取り支援を行ってきた経験がある。さらに、日常的な取り組みとして、公文式の学習療法を通じた機能訓練維持の活動に、早い時期から取り組んでおり、職員が学習療法士として研修を受けたうえで、利用者と一緒に脳機能を含む身体能力の維持に取り組んでいる。そのような取り組みを継続しながら、日常生活の中において、家事への参加、作品作り、畑の手入れ等、一人ひとりができることに参加している。また、ホームでは、地域の方との交流に力を入れており、ホームと併設している通所介護と小規模多機能事業所との合同で開催している夏祭りには、地域から多くの方が参加しており、相互に交流を深めると共に、ホームの取り組みを知ってもらう機会にもなっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を復唱し、意識づけている。	代表者が考えた基本理念である9項目と、毎年度毎に、職員から選んだ3項目の理念を掲げることで、理念の実践に取り組んでいる。また、毎朝の申し送りの際に、項目を分けて唱和しており、理念の浸透にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や清掃活動に参加している。又、悠縁だよりを回覧板で回覧している。	ホームは、町内会に加入し、清掃活動や地域の消防訓練に参加しながら、ホームが地域の避難場所にも指定されている。また、ボランティアの訪問の他、ホームで開催する夏祭りには、地域の方の参加が得られており、地域との相互の交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験の受け入れや外部への研修参加に努め、サービスの質の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、サービスの質の向上に向けて意見交換をしている。	併設されている小規模多機能事業所との合同で開催されており、ホームからは、主に利用者の現状やホームの行事の案内等を行っている。そのうえで、出席者に意見を求めながら、運営への反映につなげている。	現状、家族の参加が限られている。今後、法人の状況により、別の場所でも実施が可能になるため、その際には、他の家族も出席できるようになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係が築けるよう担当者と話し合っている。	3か月に1回開催される市内の介護事業所の連絡会に参加しており、市の職員との情報交換の機会としている。また、併設事業所とも関連して、地域包括支援センターとの情報交換に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を設け、拘束しないケアについて学び、勉強し又、それをケアに取り組んでいる。	法人内に身体拘束委員会があり、身体拘束のない生活の実現に取り組んでいる。日中、玄関に施錠しないことを徹底して、職員間で見守りを行いながら、外に出てしまう際には、一緒に歩く等の対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の中で学び、又、スタッフ同士声を掛け合いながら、虐待がないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合いをし、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が、利用者や家族が理解、納得されるまで十分に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、面会での相談や意見を聞き入れ、話し合いをしている。	ホームでは、家族も参加する行事を開催し、家族間の交流に取り組んでいる。玄関に意見箱を設置している他、管理者(代表者)とホームの介護長で細かな対応に取り組んでいる。また、ホーム便りとして、年4回、運営法人で作成した便りを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やケア会議の中で、意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回、フロア会議があり、職員間で意見を出し合い、ホームの介護長が、意見や要望等の把握に取り組んでいる。それらの内容は、法人内のケア会議、幹部会議にあげられ、意見、要望等の実現に取り組んでいる。また、個人面談を実施する機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、スタッフ一人ひとりが向上心が持てるよう、メッセージカードを毎月1回渡している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加したり、研修内容の報告する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会に参加し、他事業所との交流の中で勉強をしたり、相談したりしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人その人の性格をしっかりと把握し、今、何を求めているのかを考え、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相手の立場になり考え、家族や本人が安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望をもとに、必要としている支援を見極め、必要に応じての対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で共に学び、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を行い、両者の関係を踏まえつつ、より良い関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の品や知人、友人などのつながりが保てるよう家族にも協力して頂き、支援に努めている。	ホームでは、利用者の友人や知人との交流を継続している方がおり、ホームからその方に会いに出かけることもある。また、利用者が馴染みの美容院に出かけたり、家族と外出する機会をつくったり、定期的に外泊されている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようスタッフが橋渡しなどをし、利用者同士が支え合える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報を提供し、本人が安心して生活出来るよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活出来るよう、日々の行動や表情などから把握に努めている。	職員は担当制で利用者の把握を行っており、介護記録の様式についても、表面を昼間、裏面を夜間と分けることで、職員間で情報が共有しやすい工夫を行っている。また、フロア会議の際には、担当者からの報告もあり、職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、その人の生活歴やサービス利用経過などをしっかりと把握し、又それがしっかりと活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用し、日々の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見をしっかりと聞き、又それを活かし、会議で話し合いながら作成している。	ホームでは、40項目にわたる細かなアセスメントに基づき介護計画を作成しており、利用者の変化に合わせて見直しを行っている。毎月のフロア会議では、1人以上利用者についてカンファレンスを行いながら、モニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人カルテに記入し、又その内容を踏まえて、介護計画の見直しや話し合いなどを会議で行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、柔軟な支援サービスが提供出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、職場体験の受け入れなどを行っている。 図書館などに希望時に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族希望のかかりつけ医は継続し、その他は2週間に1度の往診にて対応している。	ホームでは、協力医による定期的な往診が行われており、精神科医師による往診も可能である。以前からのかかりつけ医の継続も可能であり、ホームから情報提供も行われている。また、歯科受診の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護にて、日々の変化の報告や相談をし、話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提供し、少しでも早く退院出来るよう、面会や電話にて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設、家族、医師との話し合いの中で、ターミナルについての説明を十分にし、方針を共有している。	ホームは、看取りを見据えた支援を行う方針を掲げており、これまでに多くの方の看取り支援を行った経験がある。また、訪問看護事業所との連携を深めたり、ターミナルに関する研修会も実施しており、職員への指導にも努めている。	ホームでは、利用者の重度化が進んでいる現状がある。利用者がホームでの生活を楽しみながら最期を迎えられるように、今後も継続した職員の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署による指導のもと急変時の対応など行っている。 連絡網の掲示。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消防訓練を消防署指導のもと行っている。	年2回、避難訓練を実施しており、併設している事業所と連携した訓練にも取り組んでいる。さらに、地域の方の避難場所にもなっていることで、地域との連携にも努めている。また、ホーム内の備蓄品の確保も行っている。	ホームが、地域の方の避難場所にもなっていることもあり、今後も継続しながら、地域の方にホームの取り組みを知ってもらうことや、地域の方が避難しても対応できる分の備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人ひとりの人格を尊重し言葉かけをしている。	法人内に委員会が組織されており、利用者への接遇面の向上に取り組んでいる。また、ホーム内で研修の機会をつくっている事や、管理者(代表者)や介護長が職員の対応で気になった際には、その都度、注意を促すように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、状態に応じた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでもらったり、鏡の前に立つ場面づくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けなど職員と一緒にしている。	長年つくってきたメニューに基づき調理を行っており、利用者の希望や嗜好に合わせたアレンジも行っている。また、ホームの畑で収穫された野菜をとり入れたり、重度の方が増えていることで、職員が介助しながらミキサー食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態に合わせ、できるだけ自力摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにて口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレで排泄出来るよう誘導している。	職員は、一人ひとりの排泄チェックも参考に声かけやトイレへの案内等を工夫しながら、トイレでの排泄に取り組んでいる。また、フロア会議でも検討テーマにしており、結果、排泄状態の改善につながった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やマッサージなどを行い、飲食物の工夫にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や時間に合わせた入浴が出来るよう支援している。	基本1日おきの入浴であるが、毎日準備を行っていることで、希望があれば、毎日の入浴や夜間の入浴も可能である。また、柚子や菖蒲の季節の楽しみを行ったり、足湯に出かける機会もつくっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に合わせて休息したり、又安眠出来るよう精神的ケアにも努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月日、名前を本人の前で読み上げ、確認しサインする事で、服薬間違いがないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を提供し、気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクなどで楽しんでもらえるよう支援に努めている。	日常的な散歩を行っている他、季節の土筆取りをしたり、近隣の喫茶店に出かけたりしている。また、法人でレク委員会が組織されていることで、職員間で外出内容を検討し、季節に合わせた外出等にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクなどを通じて、お金を使う場面づくりに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等が届いたら本人にわたし、読めない方は読んであげたり、代筆をしてハガキを書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらう為、レクリエーションなどでその季節にあった作品作りに努め、工夫をしている。	ホーム内は、ゆったりと過ごすことができる空間が確保されている他、臭いを吸収する壁材を使用しており、快適な住環境に取り組んでいる。また、リビング、通路、階段には、ホームの行事の様子や、利用者と職員で作った新聞紙を利用した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、くつろいだり出来る空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具などを置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、利用者や家族の希望に合わせて、家具や日常の使い慣れた物を持ち込み、ゆったりと過ごすことができるように取り組んでいる。また、利用者の生活習慣に合わせて、ベッドの他、カーペットを敷いて布団で過ごすことも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルの向きや椅子の配置など、安全かつできるだけ自立して生活出来るよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム悠縁

目標達成計画

作成日: 平成 26 年 1 月 14 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	利用者の重度化に対する取り組み	重度化に対する今以上の柔軟な対応	施設内や施設外への研修参加。勉強会を通して、スタッフひとりひとりの知識を深め、柔軟な対応が出来るよう取り組む	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。